

2007年5月22日開催 第518回 番組審議会

■ 出席委員

荒巻裕委員長 櫻井美幸副委員長 大村英昭委員 神谷徹委員
黒田勇委員 東野博昭委員 藤原健委員

■ 毎日放送出席者

山本社長 石橋専務 本多専務 西常務 田中常務 上田常務
山西報道局長 西岡ラジオ局長 東編成局長 熊広報室長
三村制作局長 本郷プロデューサー

◆ テレビ番組「水野真紀の魔法のレストラン」

5月3日(木) 18時55分～19時54分放送

毎日放送の第518回番組審議会は5月22日、大阪市北区の本社で開かれ、テレビ番組「水野真紀の魔法のレストラン」を審議しました。

この番組は2001年4月にスタートした食をテーマとした情報バラエティー番組。「おいしい料理は、人を幸せにする」というメッセージを発信し続けています。

毎週木曜18時55分からの1時間番組。

委員の主な意見は次の通り。

- * 料理番組だがよく街を歩いている。新聞社の街まわりの記事の要諦は「へえー」と驚いて、「ほー」と感心して、「ふーん」と納得、喜怒哀楽が映し出されること。それがこの番組にはある。単に料理の番組ではなくて、人の生き方にも通じるものがある。

番組タイトルにうたわれている水野真紀さんの存在感が少し薄いように感じた。ほかの出演者が非常に個性のある人たちで、うまくコーディネートするのは大変だろうと思うが。

- * おいしそうなお好み焼きや焼きそばがガンガン出てくる。すごく勢いがある。スピーディーで、テンポがいい。

これまでに紹介した店が3000軒、独自情報で深みのある、誰も知らないネタが出てくる。ちょっとほろりという再現ドラマを使っているところが入っているところがこの番組の肝だ。新しい切り口の斬新なコーナーも見てみたい。

* この日の特集が粉もんだから無理ないが、出てくる食べ物がこってりこてこて。関西の懐石料理は素材のおいしさを生かす、あっさりまったりという薄味が基本だが、そうしたのとは全く違う、まさしくこてこてのデンプン過多みたいなものが、ずーっと続く。番組全体に何かこてこて感がある。

* 私は常々逆説的に、「関西のテレビ局は、吉本とたこ焼きとタイガースは捨てる」と言っているが、この番組は粉もんが多くて、我々の本当の食生活の比率からいうと、粉もんには偏り過ぎではないかという気がする。いわゆる、食い倒れの大阪は、食文化の多様性というのを持っているはずで、その多様性をうまく表現してほしい。

隠れた名店をさらに発掘して食文化の多様性を発信できるように、今後も努力を続けてほしい。

* 基本的には非常に楽しめたが、ちょっとタレントが多過ぎるというのが第一印象だ。

北新地の店の映像が出ている時に、スタジオのタレントの顔が画面の隅に出る。私はあれが苦手な人で、どうしても目がそっちにいつてしまう。出すにしてもずっと出す必要はないのではないか。

* 水野真紀は番組スタート当初に比べると、自然体でやっている。大阪の芸人さんらがたくさん出ている中で、一種の清涼剤的な存在。目立ちほしくないかもしれないが、微妙なバランスでいい。

- * 見ていて楽しい番組。長く続いているのは、綿密な下調べや、密度の濃い、濃密な番組の味を出す努力をしてきたからだ。

◆**嚴重注意の行政指導について**

2005年(平成17年)10月18日に放送したテレビ番組「たかじんONE MAN」において、名誉棄損があったことは放送法に抵触するとして、近畿総合通信局から毎日放送に出された嚴重注意の行政指導について、広報室長から報告があり、委員の間で意見交換が行われました。

◆**放送倫理検証委員会について**

5月12日に、BPO(放送倫理・番組向上機構)に設立された放送倫理検証委員会について、山本社長が説明しました。放送倫理検証委員会は、放送倫理を高め放送番組の質を向上させるための審議を行うとともに、虚偽の内容により視聴者に著しい誤解を与えた疑いのある番組が放送された場合、放送倫理上問題があったか否かを調査・審理して、勧告または見解を出すことになっています。